

KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

KATO PRO

TONE

MiR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD



AUTOBACS SUPER GT 2019 series Round.2 FUJI GT 500km RACE

開催サーキット：富士スピードウェイ
予選：5/3(金) 晴れ
決勝：5/4(土) 雨/曇り

大雨のため不完全燃焼なレースだったものの、道上龍がしっかりと混戦を戦い抜き9位でフィニッシュし、開幕戦岡山をポイント獲得で終えた Modulo Drago CORSE。その後チームは鈴鹿でのメーカーテストに参加し、富士スピードウェイでの第2戦に臨んだ。事前の公式テストでも好調だったラウンドだ。

公式練習

5/3(金) 8:50~10:15 (専有 10:15~10:25) 天候：晴れ コース：ドライ
ベストタイム： 道上龍選手 1'37.421 大津弘樹選手 1'37.423

元号が“令和”と変わり、初めての SUPER GT のレースウィークは、富士山も顔を出す快晴の下、5月3日の午前8時30分にスタートした。10連休ということから前年よりも多い3万5800人もファンが詰めかけた。

公式練習で、まず Modulo KENWOOD NSX GT3 のステアリングを握ったのは道上。チームは予選に向けタイヤの評価やセットアップの煮詰めを行っていく。この公式練習では大きなアクシデント等はなく、赤旗中断が一度もないまま進んだが、まずは17周をこなした道上が序盤に1分37秒421をマークし、大津弘樹に交代。大津は20周を走り、終盤に1分37秒423というベストタイムを記録。Modulo KENWOOD NSX GT3 は9番手で最初のセッションを終えた。



KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****MIR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

公式予選

5/3(金) 14:30 ~ 15:43 天候: 晴れ コース: ドライ
ベストタイム: 道上龍選手 1'37.357 (Q1) 大津弘樹選手 1'36.775 (Q2)

Q1:

午後2時30分にスタートした公式予選Q1は、午前引き続き晴天の下で迎えた。Q1でModulo KENWOOD NSX GT3のステアリングを握った道上は、まず3周をかけてウォームアップをこなすと、ややタイヤのフィーリングが悪かったものの、計測4周目に1分37秒357というベストタイムを記録。その時点での5番手につけた。その後ライバルがタイムを上げたものの、13番手でQ2進出を果たした。

Q2:

GT500のQ1をはさみ、午後3時15分にスタートしたGT300のQ2。道上から得られたデータをもとに改良を加えたModulo KENWOOD NSX GT3を駆る大津は、Q1と同様計測4周目にアタックをかけ1分36秒647というタイムをマークするが、この周は四輪がコース外に出てしまう“走路外走行”だったことから、大津はアタックを再度敢行。翌周1分36秒775をマークし、8番手を獲得してみせた。

決勝レース

5/4(土) 14:30 ~ 天候: 雨のち曇り コース: ウエット~ドライ
ベストタイム: 大津弘樹選手 (1'39.187)

迎えた5月4日の決勝日。朝から晴天に恵まれ、富士スピードウェイには5万6000人もの大観衆が訪れ、午前のピットウォークにはModulo Drago CORSEのピットにも多くのファンが詰めかけた。ただ、この日は午後から雨の予報が出ていたため、Modulo Drago CORSEはもちろん、他チームの注目は「いつ雨が降るか」というところだった。午後0時55分からのウォームアップ走行が始まる頃には厚く雲が垂れ込めはじめ、走行終盤にはポツポツと雨が。ファンで賑わいをみせたグリッドウォーク後半にはついに大粒の雨が降りはじめた。



Modulo KENWOOD NSX GT3のスタートドライバーを務めたのは大津。路面はすぐにしっとりと濡れてしまったため、チームはウエットタイヤに交換し大津を送り出した。セーフティカースタートとなったが、3周目のリスタート後、すぐに大津はふたつポジションを上げるとトップグループを追った。

スタート直後から次第に雨が強くなり始め、コース上は姿勢を乱すマシンが現れはじめるが、13周目、いよいよ本降りとなりレースはセーフティカー導入となった。さらに15周目、強まる雨のためレースは赤旗中断となってしまふ。2戦連続の赤旗は今まであまりないことだ。

レースは午後3時33分、セーフティカー先導のもと再開される。雨は小康状態となり路面は乾きはじめていた。4番手からレースに戻った大津は19周目に#55 NSX GT3をパスし、表彰台圏内の3番手にポジションを上げた。

しかし急速に乾きはじめる路面のなかで、大津の後方には#720 マクラーレンや#55 NSX GT3、#96 RC F GT3、さらに猛烈なペースの#65 メルセデスが迫る。レインタイヤは濡れている状態こそパフォーマンスを発揮するが、乾きはじめるとグリップを失う。それもメーカーによって状態は異なっていく。

大津は後方のライバルたちを相手に果敢な戦いをみせていくものの、26周目に#65 メルセデスに100Rでアウトからかわされる。同じクラスのライバルではあり得ない抜かれ方に、ピットは大津に無線

KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****STONE****MIR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

でタイヤの状態を確認した。また天候もまだまだ読めず、ふたたび雨が降る可能性も強くあった。そのため、グリップが落ち始めていた大津を呼び戻し、フレッシュなタイヤに換えるべく、チームは29周目にピットインを敢行。ウェットタイヤを交換し、同時にドライバーも交代。大津から道の上にスイッチした。

しかし、このときの大津のタイムは、同じヨコハマを履くライバルたちのなかでは“悪くない”ペースだったのだ。大津の後方に迫っていたライバルは、別メーカーのタイヤだった。さらに悪いことに、その後雨が降ることはなく、レコードライン上はドライコンディションに転じていったのだ。レース展開が完全にModulo Drago CORSEの思いとは逆の方向にいてしまい、ウェットタイヤで苦しい戦いを強いられていた道の上は、たまたま42周目にピットイン。スリックタイヤに交換した。

ライバル勢がピットインを遅らせ、ドライバー交代とウェット→ドライへの交換を同時に行っていたのに対し、Modulo Drago CORSEはこれで1回分余計にピットストップすることになってしまった。ポジションは20番手前後にまでドロップしてしまうことになったが、不安定な天候から何が起きるかはまだ分からない。道の上は1分40秒台のラップをきれいに並べながらあきらめず前を追い、70周目にピットイン。ふたたび大津にステアリングを託した。

大津は道上が履いていたタイヤと同じ種類のを履き、74周目には1分39秒187というベストタイムを記録し追い上げを開始するが、急速に気温が低下していくなかで、タイヤが急速に摩耗していった。さらに86周目、今度はミッションにトラブルが発生してしまい、大津は緊急ピットイン。Modulo KENWOOD NSX GT3はそのままレースを終えることになってしまった。

事前に期待を集め、決勝レースでも序盤は表彰台圏内を走るなど、上位への手ごたえを得ていたModulo KENWOOD NSX GT3だったが、終わってみればリタイアにはならなかったものの、26位という順位はチームが望んでいたものではない。次戦鈴鹿へ向け、Modulo Drago CORSEはふたたび気を引き締め直した。



KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

HATO PRO

STONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD

監督・ドライバーコメント

チョン・ヨンフン監督

初日の走り出しから思ったようにスピードが伸びず、アンダーステアを消す方向でセットアップしていきました。予選は8番手でしたが、タイム差はそこまで大きくなかったので悪くはなかったと思います。レースは燃料を多く積んだ状態でアジャストし、ウェットタイヤを履いて挑みましたが、大津選手のスティントで急に追い上げられてしまいました。もう少し路面が乾くのが遅いという予想もありましたが、我々ももう少し冷静に我慢できれば、ライバルとの関係も掴むことができましたし、そこは焦りがあったかもしれません。最後はトラブルもありましたが、次戦へしっかり反省し改善していかなければいけませんね。

道上龍選手

ウェットでのレースになりましたが、ピットインのタイミングが早すぎたのが敗因のひとつでした。チームとしてしっかり反省しなければいけません。もう少し我慢して、みんなと同じタイミングでスリックを履くべきでした。ただ、あの後雨が降る可能性もあったので、もしそうなったら僕たちに有利にはなりませんが、SUPER GTは本当にシビアなレースで、そうしたひとつのミスが命取りになってしまいますね。とはいえ、レース前半は大津選手がいい走りを見せてくれていたと思います。こういう結果になってしまったのは仕方がないので、今回得られた反省点をきっちりと活かして、次戦に繋げていきたいと思っています。

大津弘樹選手

反省点の残るレースになってしまいましたね。僕はスタートを担当したのですが、序盤のペースはすごく良く、追い上げることができました。赤旗中断後もペースは良かったのですが、路面が乾きはじめてからはライバルが速く、一気に抜かれてから僕の中にも焦りが出てしまって。後から考えると、ヨコハマ装着車では遜色がなかったんです。もっと視野を広く見るべきでしたし、自分のドライバーとしての課題になりました。終盤はタイヤのグレイニングがひどく、気温が低いときにどうタイヤを温めるか、どうもたせていくかも課題になりましたね。次戦以降、今回の課題をきっちり克服して挑みたいと思っています。



Official Twitter : <https://twitter.com/34ModuloDrago>
Facebook Page : <https://www.facebook.com/DRAGO.CORSE>